

第 317 回研究報告会 (11 月 28 日)

アフリカ社会の柔軟性—“ブリコラージュ”からの視点—

森 洋明

都市化が進む一方で、公共インフラが追いついていないコンゴでは、人々が生活するためにさまざまな工夫をしているのが見られる。市場や通り、空港や町中において、生活の糧を得るべく多種多様な「プチビジネス」が展開されている。そうした生きるための工夫を、「ブリコラージュ」という観点から眺めると、社会の「柔軟性」が見えてくる。

ブリコラージュ (Bricolage) とは「あり合わせの道具や材料で物を作る」というフランス語であるが、そこから転じて「持ち合わせているもので、現状を切り抜けること」を意味する。人類学者のレヴィ＝ストロースが、「未開社会」の特有の思考法に対して述べた概念であるが、現在のブラザヴィルのような都市部でも同じように、「ありあわせの道具と材料を元に何かをなしとげようとする」姿を、日常の生活におけるいろいろな局面で見ることができる。

このような背景には、電気や水道、道路など、都市のインフラが未整備であること以外にも、コンゴ人の豊かな想像力や商売気質、芸術性、あるいは植民地化によって工業化が進まなかったことなどがあるのではないだろうか。また、ブリコラージュが適用される分野は単なる生活の工夫のレベルだけでなく、言語や音楽、教育、宗教、紛争解決など、さまざまな分野にも応用されている。それは奴隷貿易から植民地統治と苦難の歴史を歩みつつも、それらを自らの「工夫」によって乗り越えてきたアフリカの柔軟性であり、また潜在力ではないかと思われる。

第 318 回研究報告会 (12 月 24 日)

「おさしづ」解釈の試論

高見宇造

問題の所在

私は天理教校本科実践課程開設時から「おさしづ」の講義を担当しているが、「おさしづ」を解釈をする際に、何を根拠にするのかを取り上げた。『おさしづ研究 上』(山本久二夫・中島秀夫)では「意味理解に当たっては、常に原理的な啓示書である『おふでさき』に立ち返って吟味する必要がある。」(55 頁)とあるが、「おふでさき」に立ち返るとは何を意味するのか。その試論を報告した。

「おさしづ」に現れた「おふでさき」

「おさしづ」では「おふでさき」をどのように言われているかを見ると例えば次のようである。「ふでさき通り皆出る。今度道はいつどう、いつ見える、ふでさき皆知らせてある。」(20・6・24)、「いかなる処ふでさきほんに聞いた通り。……これから皆通るのやで。」(20・7・23) 等がある。

ここからは「おさしづ」は「おふでさき」が前提になっていることが確認できる。

「おふでさき」と「おさしづ」の連関

この点をさらに詳しく見ると例えば、「梶本松治郎二女ミチ夜泣き障りに付伺」(22・5・7)では、「さあ〜夜泣き、子が泣く、どんな事情も論してある。よう聞け。何にも彼も神口説き、皆ふでさきにも知らしてある。読んで分らん。どんなである

う。」とあるが、これは「おふでさき」の 3 号 28 から 41 のお歌と明らかに対応している。

子のよなきをもふ心ハちがうでな  
こがなくでな神のくときや 3 号 29

しんぢつに人をたすける心なら  
神のくときハなにもないぞや 3 号 32

しんぢつにたすけぢよの心なら  
なにゆハいでもしかとうけとる 3 号 38

特に「おふでさきに知らしてあるのに何故分らないのか」と言われているようである。

「おさしづ」解釈の具体例

そこで、例えば「さあ〜もう十分詰み切った。これまで何よの事も聞かせ置いたが、すつきり分らん。」(20・1・4) の下線部「詰み切る」を理解する手立てとして、「おふでさき」に「詰み切る」と言われる「話の場」を当てはめることによって解釈が可能になるのではないかという提案である。

なんときにみえる事やらこれしれん  
月日の心つみきりてある 12 号 36

このたびハとのよな事もつみきりて  
もふさしぬきハさらにてけんで 12 号 41

いまゝでにふでにつけたることハりが  
さあみえてきた心いさむで 12 号 44

これからのあとなるはなし山〜の  
神のさんねんはらすもよふを 12 号 49

けふまでわひがらくくけんきたらんで  
なにかちがいもありたなれとも 12 号 52

とん〜ととびてる事をみたとても  
心あんちハするやないぞや 12 号 56

けふからハどのよな事もせきこんで  
どんなはたらきするやしろまい 12 号 66

このそふぢどふゆう事にをもうかな  
月日たいないみな入こむで 12 号 74

とのよふな事をするのも月日にわ  
たすけたいとの一ちよはかりで 12 号 78

このお歌群から、「詰み切る」の解釈は「神の残念を晴らすために、月日が飛び出て、体内に入り込んで胸の掃除をしてたすけをする」という話が伏線にあることを指摘した。同様に、「ころりと変わるで。」(20・2・17)、「ぢば一つ理は、独り立ち出来てあるのやで。」(21・3・9)、「世上にては掃除をし掛けた。」(28・10・7) についても考察した。

お詫びとご連絡

本誌 12 月号 15 頁の清水直太郎氏の執筆者紹介において、「2002 年〜2010 年天理大学非常勤講師 (ラテンアメリカ課長と兼任)」の記載が漏れておりました。また、本誌 1 月号 6 頁「キルケゴールで読み解く 21 世紀」(4)、9 頁「現代宗教と女性」(22) は、編集上の手違いで校正過程のものが掲載されてしまいました。謹んでお詫びいたします。なお、ウェブ版では最終確定稿を掲載しておりますので、そちらをご覧ください。ウェブ版『グローカル天理』は天理大学のおやさと研究所のホームページから入ることができます。